

令和8年第2回市議会定例会一般質問一覧表

1 日 時 令和8年6月17日(水) 午前9時30分
令和8年6月18日(木) 午前9時30分

2 質問者 (質問順)

- | | | |
|--------------|-----|--------------------------------|
| (1) 新緑水クラブ | 80分 | (1 坂本拓也、2 秋葉みどり、3 中村義幸、4 井上正人) |
| (2) 市友会 | 40分 | (5 安田 讓、6 右藤秀和) |
| (3) 公明党 | 60分 | (7 井上純一、8 水谷栄志、9 蓑手純一) |
| (4) 日本共産党議員団 | 20分 | (10 坂 ゆかり) |
| (5) 参政党 | 20分 | (11 山内遼平) |

3 質問事項、要旨及び項目

質 問 者	1 坂 本 拓 也 議 員 (新緑水クラブ)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 市役所開庁時間前の待機場所について	1 令和8年1月から、市役所の開庁時間が午前9時から午後4時までに変更された。しかしながら、現在でも開庁前から市役所を訪れる市民等が多く、寒い日や雨天時にも庁舎前で待機している状況が見受けられる。今後は猛暑日も想定され、熱中症対策の観点からも来庁者への配慮が必要と考える。市民サービス向上の観点から来庁者が開庁時間まで屋内で待機できる環境づくりについて、本市の考えを問う	(1) 来庁者が午前9時の開庁に合わせて外で待機している状況をどのように把握しているか (2) 来庁者が開庁時間まで、屋内で待機できる場所を確保する考えはどうか	

<p>2 プレミアムデジタル商品券について</p>	<p>1 プレミアムデジタル商品券発行事業は、市民の生活支援や地域経済活性化を目的とした取組であり、市内事業者支援やキャッシュレス化推進の観点からも有効な施策であると考え。一方で、市民からは「スマートフォンを持っていないため利用できない」といった声もあり、デジタル化の流れの中で取り残される方への配慮も必要である。本市としても、出張窓口や相談体制の整備等、様々な支援を行っているが、今後さらにデジタル化が進む中、高齢者等が円滑にデジタルサービスへ移行できる支援も重要であると考え、本市の考えを問う</p>	<p>(1) プレミアムデジタル商品券発行事業について、市民からどのような意見が寄せられているか。また、申込み状況はどのようなか (2) スマートフォンを保有していない市民がプレミアムデジタル商品券を利用できない状況について、どのように考えているか (3) プレミアムデジタル商品券の追加販売を実施する予定はあるのか。また、実施する場合はどのような方法にするのか (4) プレミアム商品券のデジタル化を進める中で、高齢者等が取り残されないよう、携帯電話事業者等と連携したスマートフォン利用支援やデジタル活用支援を進めてはどうか</p>	
<p>3 消防団員の確保策について</p>	<p>1 地域防災力の要である消防団は、全国的にも団員確保が課題となっている中、本市では令和7年度より、消防団への活動に協力している事業所を、消防団協力事業所として認定し、社会貢献の証として表示証を交付する制度を実施している。地域防災を支える消防団を将来にわたり維持するため、企業に対するインセンティブや、加入促進のための新たな取組について問う</p>	<p>(1) 本市消防団の団員数の直近3か年の推移はどのようなか (2) 消防団員の条例定数198名に対し、現在の状況はどのようなか。また、現在の人員数における課題及び定数維持の考えはどのようなか (3) 現在、消防団への加入促進や魅力向上のために、どのような取組を行っているか。また、近年の加入促進策の効果をどのように分析しているか (4) 消防団の加入説明会や企業向け説明会等、新たな加入促進の場を設ける考えはどうか (5) 消防団協力事業所に認定された企業に対し、入札制度において優遇する仕組みを導入する考えはどうか</p>	

<p>4 持続可能な町内会・自治会運営支援について</p>	<p>1 町内会・自治会は、本来、地域住民が自らの地域をより良くするために自主的に運営する組織であり、地域における重要な役割を担ってきた。一方で、近年はライフスタイルや地域との関わり方の変化により、加入率の低下や役員の担い手不足が課題となっており、時代や地域の実情に応じた組織運営へ見直していく視点が必要と考える。町内会・自治会の自主性を尊重しながら、地域に即した持続可能な組織運営を支援していく必要があると考え、本市の考えを問う</p>	<p>(1) 本市における直近5か年の町内会・自治会の加入率の推移はどのようなか。また、その要因をどのように分析しているか (2) 町内会・自治会が担っている役割をどのように認識しているか (3) 地域の実情に応じた持続可能な町内会・自治会運営を支援するため、他自治体で実施されている活動事例の紹介や、市民活動団体・大学・企業等のノウハウ等を活かした支援体制の構築に向けた考えはどのようなか</p>	
<p>5 アジア競技大会に向けた本市の取組について</p>	<p>1 アジア競技大会という国際大会の舞台が本市で開催されることは、東海市の魅力を国内外に発信する絶好の機会である。カバディ競技を軸に、市民への機運醸成を図るとともに、国内外からの来訪者を温かく迎え入れ、本市のシティプロモーションにつなげていくことが重要である。また、一過性のイベントに終わらせず、今後の子どもたちの可能性にもつながるレガシー形成の観点から、本市の受け入れ体制と取組方針を問う</p>	<p>(1) アジア競技大会に向けた市民への機運醸成について、現在どのような取組を進めているか (2) アジア競技大会を契機として、市民が東海市に誇りや愛着を持つこと、また、市外の方に対しても東海市に来たいと感じてもらえるようなシティプロモーションについて、どのように考えているか (3) カバディ競技を契機として、子どもたちの夢や地域の活力につながるレガシー形成をどのように図っていく考えか</p>	

質 問 者	2 秋 葉 みどり 議 員 (新緑水クラブ)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 適切なごみ処理の方策について	1 近年、国際情勢の影響により、プラスチックの原料であるナフサの価格高騰や供給不安が続いている。市民からは、今後のごみ指定袋の安定供給に対して、不安の声も聞かれる。本市のごみ指定袋の状況について問う	(1) 現在、本市のごみ指定袋の主原料はどのようなか (2) ナフサ供給不安に伴い、令和8年度の一斉配布や今後のごみ指定袋の供給量や価格に影響が出る可能性はあるか	
	2 外国人の増加に伴い、生活習慣や言語の違いから、ごみ分別に関する誤解やトラブルが発生することを危惧する。地域で生活する外国人に対する、ごみ分別方法等の周知徹底について問う	(1) 本市に在住する外国人の人数及び国籍について、過去5年間の推移はどのようなか (2) 外国人が理解しやすいよう、ごみ分別方法等について積極的に周知していくべきと考えるがどうか	
2 電子投票の導入について	1 選挙事務における職員負担の増大、開票作業の長時間化、投票所スタッフの確保難等の選挙運営に関する課題がある中、電子投票が再び注目され、実施する自治体が増えてきている。本市における電子投票の導入への考えについて問う	(1) 令和8年3月執行の東海市議会議員一般選挙において、期日前投票事務、当日投票事務及び開票事務に従事した職員数は、それぞれ何人であったか (2) 電子投票を導入している自治体の動向を踏まえ、本市で電子投票を導入した場合のメリット及びデメリットをどのように捉えているか (3) 電子投票を導入することによって、開票事務の負担軽減や、手書きにより生じる疑問票や無効票の解消が期待されると思われるが、どのように考えているか	

<p>3 自転車の青切符制度導入について</p>	<p>1 令和8年4月から、自転車の交通違反に対して青切符制度が導入され、これまで指導中心だった違反行為に対して、より厳格な対応がされることとなった。一方、市民から、制度の内容がよく分からない、外国人への周知が足りない等の声も聞かれる。市民の安全を守るための周知等について、本市の考えを問う</p>	<p>(1) 過去5年間の自転車が絡む交通事故件数はどのようなか。また、その中に重大事故はあったか (2) 自転車の青切符制度導入に関して、市民や企業に対してどのような周知や啓発を行ってきたか。また、外国人に対してはどのようなか (3) 警察と連携し、幅広い世代の市民に対して交通安全講習や自転車の乗り方教室等を行うべきと考えるがどうか</p>	
<p>4 避難者支援の充実について</p>	<p>1 近年の災害では、避難所だけでなく、自宅での在宅避難や、やむを得ず車中泊を選択する避難者が増えている。国は令和6年に方針を転換し、「どこにいても避難者を支援する」と明確に示した。避難所に来ることができない人を含め、すべての避難者を支援する体制の強化について、本市の考えを問う</p>	<p>(1) 在宅及び車中泊で生活する避難者の状況をどのように把握するのか (2) 避難所に来ない避難者への支援をどのように行うのか (3) 車中泊避難場所を整備する考えはあるか (4) 車中泊避難マニュアルやガイドラインを策定すべきと考えるがどうか</p>	
	<p>2 災害時の避難生活では、水不足や生活環境の悪化により口腔ケアが不十分となり、誤嚥性肺炎による死亡が増加したことが報告されている。高齢化が進む中で、すべての避難者の口腔ケアを充実させるための本市の体制の整備について問う</p>	<p>(1) 避難所での口腔ケアの重要性をどのように認識しているのか。また、口腔ケアの充実につながる必要物品の備蓄状況や支援体制はどのようなか (2) 高齢者等で嚥下機能が低下している方に配慮した食品は、どのように備蓄されているか (3) 災害時に歯科衛生士等が避難所を巡回し、要配慮者の口腔ケアを行う体制を構築する考えはあるか (4) 口腔清拭シート等、水がなくても実施できる口腔ケア用品の備蓄をすべきと考えるがどうか</p>	

<p>5 地域防災センターの拡充について</p>	<p>1 東海市地域防災センターは平成22年に整備されてから既に15年以上が経過しており、整備当時から防災ニーズと災害リスクは大きく変化してきている。時代に合った地域防災センターとするために、施設機能の見直しや拡充について本市の考えを問う</p>	<p>(1) 過去5年間の地域防災センターの利用者数はどのように推移しているか (2) 地域防災センターの役割をどのように捉えているか。また、今後、どのような防災教育が必要と考えているか (3) 時代に合った防災を考えるため、老朽化した地域防災センターの施設機能及び体験内容の充実を図るべきと考えるがどうか</p>	
<p>6 降下ばいじん対策について</p>	<p>1 降下ばいじんは、市民にとって生活の質を低下させる環境問題となっていると考える。降下ばいじんに対しての本市の取組等について問う</p>	<p>(1) 降下ばいじんの影響を受けている市民が、どのような支障を感じて生活していると認識しているか (2) 市として、臨海部企業が実施してきた対策をどのように評価しているか。また、臨海部企業に対して市は、どのように取り組んできたか (3) 降下ばいじんの減少につながるよう、臨海部企業に対する市の取組を続けるとともに、市民に向けて降下ばいじん対策への理解を深めるための周知が必要であると考えているがどうか</p>	

質 問 者	3 中村義幸議員（新緑水クラブ）		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 水道管の老朽化による事故対策について	<p>1 近年、全国各地で水道管の老朽化による漏水や断水事故が発生しており、特に大口径管の破損は、市民生活や経済活動に大きな影響を及ぼすおそれがあること等から、国からも類似管路の状況について確認を提案されている。本市でも、水道配水管路約466kmのうち、布設後40年を経過したものが約73kmあり、60年を経過したものも存在している。今後、老朽化の進行に伴う漏水や断水事故の増加が懸念されることから、事故の未然防止に向けた本市の考えを問う</p>	<p>(1) 法定耐用年数を超過した水道配水管路が約73km使用されている現状をどのように認識しているのか (2) 老朽化した水道管が漏水や断水事故につながるリスクについて、どのように認識しているのか。また、漏水や断水事故の未然防止に向けた水道管の維持管理について、どのように考えているのか (3) 老朽管の更新を計画的に進めているとのことだが、現時点での更新状況及び今後の更新計画はどのようなか (4) 今後、水道管の更新需要の増加による財政負担の拡大が見込まれる中、水道事業の健全な経営と安全安心な水道水の供給をどのように両立していく考えか</p>	
2 観光戦略について	<p>1 本市はこれまでに「知多半島全域で観光を考えていく」との考えを示しており、広域連携による観光振興にも期待が高まっている。人口減少時代を迎える中、交流人口の拡大や地域経済の活性化を図るためにも、観光施策は今後ますます重要になると考えることから、今後の観光戦略について問う</p>	<p>(1) 交流人口の拡大や地域経済の活性化に向けて、現在、観光振興をどのように位置付けているのか (2) 本市の観光資源をどのように分析し、活用していく考えか (3) 知多半島全域での広域連携をどのように進めていくのか (4) インバウンドや市外からの誘客に向けて、情報発信を強化する考えはどのようなか (5) 戦略的に観光施策を進めていくため、民間企業経験者や専門スキルを持つ人材の登用や連携を進めていく考えはあるか</p>	

<p>3 平洲小学校の建替え工事について</p>	<p>1 平洲小学校の建替え工事において、敷地内で断層が確認されたことにより、安全性の観点から平洲中学校敷地内への移転方針が示された。学校施設は児童の学びと安全を守る重要な公共施設であり、地域住民にとっても避難所機能等の地域の拠点として大きな役割を担っている。また、移転に伴い、市民や保護者から不安や疑問の声も上がっていることから本市の考えを問う</p>	<p>(1) 移転方針が示されるまでの経緯はどのようなか (2) 小学校の中学校敷地への移転は、本市にとって初めてのケースであると認識しているが、平洲小学校区の保護者や住民への周知はどのように行ったか (3) 平洲小学校建替えの方向性と今後のスケジュールはどのようなか。また、保護者や地域の意見を取り入れる考えはあるか</p>	
<p>4 大池公園の動物舎と動植物資料館について</p>	<p>1 大池公園の動物舎と動植物資料館を含めた公園施設は、子育て世代や高齢者をはじめ多くの市民に利用されている。一方で、施設の老朽化、維持管理費の増加、人材確保、動物飼育環境の維持等、今後の運営における課題も顕在化している。利用ニーズの多様化等に対応しながら、安全で快適な環境を継続的に提供していくためには、持続可能な管理運営体制の構築が求められる。そこで、大池公園の動物舎と動植物資料館の現状認識、将来を見据えた維持管理及び今後の在り方について、本市の考えを問う</p>	<p>(1) 動物舎や動植物資料館の利用状況及び維持管理について、現状と課題をどのように認識しているか (2) 動物飼育に係る人員体制や飼育経費の現状はどのようなか (3) 動物舎や動植物資料館の維持管理について、市民参画や里親制度の導入をどのように考えているのか (4) 動物舎や動植物資料館の今後の在り方をどのように考えているのか</p>	

<p>5 ごみ集積場所におけるカラス対策について</p>	<p>1 近年、ごみ集積場所に出された家庭ごみがカラスによって荒らされ、ごみの散乱や悪臭被害が発生し、地域住民による清掃負担の増加や生活環境の悪化につながっており、衛生面や景観面からも課題となっている。ごみ集積場所は、設置場所の確保、清掃、カラス対策等、多くを地域住民が担っていることから、市としても市民への適切な理解促進や対策強化が求められる。そこで、ごみ集積場所におけるカラス被害防止対策について問う</p>	<p>(1) ごみ集積場所でのカラス被害の現状をどのように把握しているか (2) 現在実施しているカラス被害防止対策にはどのようなものがあるか (3) カラス被害防止対策を周知し、市内に広げていく必要があると考えるが、今後の取組はどのようなか</p>	
------------------------------	--	---	--

質 問 者	4 井 上 正 人 議 員 (新緑水クラブ)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 100ヘクタールのまちづくりについて	<p>1 太田川駅西土地地区画整理事業地内には、様々な店舗がオープンし活気が出てきているが、その反面、換地や防犯灯の不足等の課題を指摘する声を聞いている。課題解消及び事業完了に向けてのスケジュール等について問う</p> <p>2 令和8年6月2日から3日にかけて本市南側を通過した台風6号による、ユウナル東海の地下駐車場への影響等について問う</p>	<p>(1) 新たにオープンした大型商業施設に向かうメイン通りが暗く、住民から不安の声を聞いているが、防犯灯を新たに設置する考えはどうか</p> <p>(2) 大型物流施設や大学及びホテル等の建設も進んでいるが、それぞれ進捗状況をどのように把握しているか</p> <p>(3) これから台風が多く襲来する時期となるが、市道元浜線の排水能力はどのようなか</p> <p>(1) 地下駐車場のトイレの床が水浸しになっていたが、その理由はどのようなか</p> <p>(2) 地下駐車場のエレベーターが動いていなかったが、その理由はどのようなか</p> <p>(3) 今回の台風接近時の対応として課題をどのように認識しているか。また、今後の対策はどのようなか</p>	
2 公用車運転業務の外部委託について	1 公用車運転業務を外部委託にして、しばらく経つが、現在の状況等について問う	<p>(1) 外部委託した公用車運転業務の過去3年間の委託料の決算額はどのようなか</p> <p>(2) 外部委託したことにより問題が発生した事例はあるか</p> <p>(3) 外部委託の運転手に対する安全管理はどうしているのか</p>	
3 小中学校校外活動における安全対策について	1 小中学校における校外活動は、市外、県外で行われる機会も多くあり、最近では移動時の交通事故や熊による人的被害等が発生しており、安全対策の徹底が求められているが、本市の考えを問う	<p>(1) 過去3年間における小中学校の校外学習での事故等の発生状況はどのようなか</p> <p>(2) 小中学生が姉妹都市を訪問する交流事業における安全対策の実施状況はどのようなか</p> <p>(3) 市内小中学校が実施する校外学習について、目的地までの移動手段をどのように把握し、安全対策をどのように講じているか</p>	

質 問 者	5 安 田 議 員 (市友会)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 アジア競技大会開催への準備状況について	1 第20回アジア競技大会において、本市で開催されるカバディ競技の会場となる市民体育館、周辺施設等の準備復旧工事及び市民体育館の利用促進について問う	(1) 過去3年間における市民体育館の利用者数の推移はどのようか (2) 大会期間中に市民体育館を利用できない市民に対し、大会後、市民体育館の利用促進が図れるような対策は検討されているのか (3) 会場準備に関する工事の実施状況及び復旧工事の内容や予定はどのようか。また、本市はどのように関わっていくのか	
	2 会場となる市民体育館周辺には、住宅や学校、企業の事業所等も隣接しているため、市民の日常生活への影響も考慮しなければならない。地域への影響と大会期間中の安全配慮について、本市の準備状況と考えを問う	(1) 会場周辺の警備や交通規制について、警察や大会組織委員会とどのように連携をしていくのか (2) 会場周辺での交通規制や検問の実施等による市民生活や周辺企業への影響をどのように想定しているか。また、混乱等を避けるため、本市はどのような対応を検討しているか	
2 部活動の地域展開の取組について	1 文部科学省が示している部活動の地域展開等の進め方に関するガイドラインが改定され、令和8年度からの6年間を改革実行期間と位置づけ、原則、休日部活動の地域展開を目指すことが改めて明確となった。このガイドライン改定も踏まえ、中学校部活動の地域展開に関する本市の状況及び今後の考えを問う	(1) 新たな地域クラブについて、令和8年5月1日現在の中学生の参加者数及び参加率はどのようか (2) ジュニアクラブの指導者数及びその認定方法はどのようか (3) ニーズに合わせて、ジュニアクラブの種目や文化活動の拡充は検討されているか (4) 休日の部活動の地域展開に伴い、平日の部活動の活動状況に変化はあるか (5) 休日の部活動の地域展開における成果と新たな課題について、どのような認識を持っているか (6) 本市が目指す中学校の部活動の姿はどのようなものか (7) 現時点で平日の部活動の地域展開について、どのような考えを持っているか	

3 地域防災体制の充実について	1 消防団は、消火活動や地震等の災害への対応だけでなく、防災訓練や応急手当指導等、地域に密着した幅広い分野で活動をしている組織であるが、消防団について本市の状況と考えを問う	(1) 令和8年度の入団者数は11名となっているが過去3年間の入退団者数の推移はどのようなか (2) 各分団の維持に必要な団員数をどのように考えているか (3) 消防団協力事業所制度の導入・施行で得られた成果及び課題をどのように認識しているか (4) 新規入団者の獲得には、市民が消防団と接することのできる環境づくりが重要であると考えますが、その機会創出に地域と一体となって取り組んでいく考えはあるか	
	2 愛知県では、人とペットが共生できる愛知の実現を目指しており、ペット同行避難体制の整備を推進している。飼い主とペットの同行避難の在り方について、本市の状況と考えを問う	(1) 現在、市が指定する避難所におけるペットの受け入れ態勢はどのようなか (2) 避難所内におけるペット専用スペースの確保やペット用品の準備状況はどうか (3) 県が実施した令和6年度ペット同行避難対策事業の結果を本市はどのように受け止めているか	
4 市民の安全・安心を守る取組について	1 本市における令和7年の犯罪発生件数は695件となっており、重点罪種件数も依然として高い水準にある。また、全国的にSNSを通じて募集される闇バイト等が社会問題となっており、強盗や特殊詐欺等の重大犯罪に若年層が巻き込まれる事件が発生していることも問題視されている。犯罪の未然防止及び若年層の関わりを防ぐ取組について、本市の状況と考えを問う	(1) 令和7年に発生した犯罪の内容及び傾向をどのように把握しているか (2) 重点罪種の件数の増減について、どのような分析が行われているか。また、各犯罪類型の特性を反映した防犯対策として、どのような取組が行われているか (3) 闇バイト等、SNSが入口となっている犯罪に対して、若年層が足を踏み入れないための啓発活動や情報モラル教育等はどのように行われているのか。また、犯罪の未然防止に向けた支援実施における課題をどのように捉えているか	

質 問 者	6 右藤 秀和 議員 (市友会)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 南海トラフ地震に対する備えについて	1 本市では中央防災倉庫を整備し、災害時に必要となる食料や生活物資等の備蓄を行っており、こうした備えは市民の安心に繋がる重要な取組であると認識している。南海トラフ地震のような大規模地震では避難所へ「物資を迅速に届ける」ことも重要になる。そこで地震被害を想定した物資の搬出、輸送体制について問う	(1) 中央防災倉庫に備蓄している食料や生活物資の種類、数量の設定根拠はどのようなか (2) 中央防災倉庫から各避難所への物資の搬出についての体制はどのようなか (3) 夜間、休日の発災や停電を想定した場合の物資の搬出体制はどのようなか (4) 実際の搬出や輸送を想定した訓練は実施されているのか (5) 中央防災倉庫への車両の進入は駐車場南側からアクセスすることになるが、路面の損傷で進入できない場合はどのように搬出するのか	
2 自転車への交通反則通告制度の導入について	1 令和8年4月より、自転車への交通反則通告制度、いわゆる青切符制度が適用された。本制度は16歳以上を対象としているが、自転車を利用する幅広い世代への自転車の安全な利用に関する啓発が極めて重要になる。本市における青切符制度の導入に伴う対応状況と自転車の交通ルール教育等の啓発状況について問う	(1) 自転車への交通違反に対する取締りについて本市の役割をどのように認識しているのか (2) 自転車による交通事故を防ぐ上で青切符制度の周知と啓発が重要となるが本市の取組はどのようなか (3) 小学生から高齢者までそれぞれの世代に向けた自転車の乗り方や交通ルールの理解促進のための取組をどのように進めているか (4) 他市町では反則金納付に関する詐欺被害も発生しているが、詐欺被害防止を図る取組はどのようなか	

<p>3 通学路の安全施設の管理について</p>	<p>1 通学路は、児童生徒が安全に登下校できる環境の確保を目的として指定しているものであり、その安全性を維持するためには、交通安全施設を適切に管理することや通学路の変更に対する管理も極めて重要となる。そこで本市における通学路の安全施設の管理状況について問う</p>	<p>(1) 通学路の交通安全施設とはどのようなものが対象となるか。また、管理者はどのようなか (2) 通学路に設置されている交通安全施設について、どのような頻度や方法で点検を実施しているのか。また、点検により把握された危険箇所や施設の不具合について、どのように補修や更新に繋がっているのか (3) 通学団の編成や通学路の変更をする際、児童が安心安全に通学するためにどのような手順で定めているか (4) 通学路標識等は視覚により注意を促す施設であり、汚損時は速やかに取替が必要と考えるが、本市の考え及び対応はどのようなか</p>	
<p>4 困難を抱える子どもへの支援について</p>	<p>1 令和7年3月策定の東海市子ども計画では「困難を抱える子ども」への支援を課題としており、きめ細やかな支援の充実が必要とされている。そこで本市における「困難を抱える子ども」への支援の現状及び今後の取組について問う</p>	<p>(1) 「困難を抱える子ども」の中には虐待を受けている子どもも含まれると考えるが、支援の取組はどのようなか (2) 子ども自身から虐待に関する相談はあるのか。また、子どもからの虐待に関する相談への対応はどのように行われているのか (3) 支援体制の充実に向けた取組はどのようなものか</p>	

質 問 者	7 井 上 純 一 議 員 (公明党)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 歯と口腔の健康づくりについて	1 本市では、市民の健康寿命の延伸と質の高い生活の確保を目的として、「東海市歯と口腔の健康づくり推進条例」が制定された。また、大阪公立大学等の研究グループが行った調査では、歯の健康状態が死亡率や要介護リスクと強く関係していることが明らかになった。そこで、条例を実効性のあるものとするための具体的施策について問う	(1) 本市における75歳以上の高齢者の歯科健診受診率はどうか。また、受診率向上のための取組と課題は何か (2) 介護予防の観点から、口腔機能の維持・向上を目的としたオーラルフレイル予防教室等の取組を拡充する考えはあるか (3) 歯科疾患と糖尿病等の生活習慣病との関連が明らかになっていることから、糖尿病悪化予防事業との統合的な取組を進めるべきと考えるがどうか	
2 ママ応援事業について	1 本市のママ応援事業は先輩ママ等の育児・家事支援を通じて子育てする母親等を孤独・孤立から守る事業であるが、担い手不足や周知不足が課題となっている。そこで、福岡市の先進事例を参考に、支援対象の拡大及びSNS等による周知強化をすべきと考え、市の見解を問う	(1) ママ応援事業の過去3年間の利用実績はどうか。また、課題は何か (2) 支援対象の範囲を妊婦まで拡大してはどうか (3) 制度を知らない市民が多いことから、SNSを活用する等、周知方法を工夫してはどうか	
3 子育て世帯の住宅費支援について	1 住宅価格の高騰により、本市でも子育て世帯の住宅費負担が増大し、市外流出の一因となっている。そこで、市有地を活用して官民連携による低廉な賃貸住宅を整備し、定住支援を通じて地域活性化につなげるべきと考え、市の見解を問う	(1) 市内の子育て世帯の住宅費負担の現状をどのように分析しているか (2) 市営住宅跡地を活用した、子育て世帯向け低廉住宅の整備について検討する考えはあるか (3) 市の財政負担を抑えるため、民間事業者への定期借地方式等の活用を検討してはどうか	

<p>4 障がい児者支援について</p>	<p>1 本市の障がい児者支援は、制度があっても現場で十分に機能していないとの当事者の声を聞くが、実効性ある改善を図るべきと考え、市の見解を問う</p>	<p>(1) 強度行動障がい児者を受け入れ可能な事業所が市内になく、近隣市町に比べて支援が遅れている現状をどう認識し、今後どのような対応を考えているのか (2) 本市の相談支援について、量と質の両面の強化が必要と考えるがどうか (3) 知的障がい児者の大半が親と同居している実態を踏まえ、親の入院等、緊急時の支援の仕組みを構築すべきと考えるがどうか (4) 集団検診において、円滑な実施を図るため、イラストや写真を使った手順書を作成してはどうか</p>	
----------------------	--	---	--

質 問 者	8 水谷栄志議員 (公明党)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 住宅用火災警報器について	1 住宅用火災警報器は、火災の発生を早期に知らせ、逃げ遅れを防ぐための重要な設備であるが、住宅用火災警報器の設置義務化から相当期間が経過し、多くの機器が10年の寿命を迎え、電池切れや電子部品の劣化が発生している。住宅用火災警報器の設置の定着化及び高齢者世帯等への取り付け支援について、本市の考えを問う	(1) 住宅用火災警報器の設置率及び設置後10年以上経過した機器の状況について、本市はどのように把握しているか (2) 設置義務化から相当期間が経過し、一斉に更新期を迎える中、市民への啓発と確実な本体交換の促進が急務であると考えますが、本市の考えはどのようなか (3) 自力での機器交換や高所への取り付けが困難な高齢者や障がい者等の要配慮世帯に対し、機器の設置や交換を直接サポートする実効性のある支援の導入・拡充について、本市の考えはどのようなか	
2 健康ふれあい交流館の設備について	1 健康ふれあい交流館は高齢者、障がい者及び子育て世帯をはじめ、多くの市民が利用する施設であるが、施設内には和式トイレが残っている等、利用環境に関する課題が見受けられる。誰もが安心して快適に利用できる施設とするため、本市の考えを問う	(1) 施設内の和式トイレの設置状況はどのようなか。また、利用者の利便性向上のため、洋式トイレ及びベビーチェアを設置する考えはどのようなか (2) 施設内に設置されている電位治療器について、設置時期はどのようなか。また、老朽化への対応として、今後の更新や入れ替えについてどのように考えているのか	

質 問 者	9 蓑手 純 一 議 員 (公明党)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 5歳児健診の実施について	1 令和8年度から5歳児健診を開始するにあたり、現在、対象世帯へのアンケート送付が始まっている。5歳児健診は、子どもの発達や社会性、就学に向けた課題を早期に把握し、必要な支援につなげる重要な取組である。そこで、事業実施における具体的なスケジュールやアンケートの活用方法、また、健診後の支援体制及び現時点で想定している課題について、考えを問う	(1) 健診実施から結果説明、必要な支援につなげるまでの流れはどのようなようか (2) 送付しているアンケートは、どのような視点で課題把握し、未提出世帯や未受診者へのフォローはどのように行うのか。また、保護者が相談しやすい体制づくりをどのように考えているのか (3) 健診で発達面や生活面の課題が見られた場合、保育園、幼稚園及び小学校等との連携をどのように行っていくのか (4) 現時点で本市として想定している課題は何か	
2 教育環境の整備について	1 昨今の猛暑は登下校時の児童生徒の体に大きな負担となっており、学校での熱中症対策の充実が早急に求められている。特に体力面で配慮が必要な小学1・2年生に対しては、下校時の熱中症対策が重要であり、その一環として、ネッククーラー等の保冷剤は、暑さによる体調不良の予防につながる。児童生徒が安心してクールダウンができる環境整備の考えを問う	(1) ネッククーラー等の冷却用品について、下校時には保冷効果が十分に保てない状況があるため冷凍庫の設置が有効と考えるが、段階的に設置する考えはあるか	

	<p>2 給食配膳着について、昨今では衛生面や柔軟剤の匂い対策として、個人のエプロン等との選択制にしている学校が全国的にも増えている。各家庭で洗濯されるため、多様な家庭環境への配慮や保護者の家事負担軽減への対応の観点から、現状認識と今後の柔軟な運用について問う</p>	<p>(1) 給食配膳着について、現在の運用状況はどのようなか。また、保護者から香害や洗濯時のアイロンがけ等の家庭負担に関する意見はあるか (2) 各家庭の事情に応じ、給食配膳着を選択制にする等、柔軟な運用を認める考えはどのようなか</p>	
<p>3 公園の安全確保と利用環境改善について</p>	<p>1 大池公園及び聚楽園公園等の市内大型公園は、多くの市民が日常的に利用する憩いの場であり、高齢者や子ども連れの利用も多いが、公園内では側溝や段差等の施設の老朽化等、安全面で不安を感じる箇所が見受けられる。利用者が安心安全かつ快適に利用できる環境整備を進めるため、危険箇所の改善状況や今後の対応方針についての考えを問う</p>	<p>(1) 市内大型公園における側溝、園路及び周辺の危険箇所等について、安全点検及び改善状況はどのようなか (2) 誰もが安心して利用できる公園の環境を目指し、転倒やつまずきの原因となる老朽化した施設や段差への対策等、園内施設における機能向上やバリアフリー化を含めた改善をどのように考え進めていくのか (3) 公園内に設置されているトイレについて、洋式化への考えと今後の整備計画はどのようなか</p>	
<p>4 道路交通法一部改正による道路整備について</p>	<p>1 道路交通法の一部改正による自転車青切符制度導入を踏まえ、市民が安全に自転車通行をできるよう、道路補修や自転車通行帯整備等の交通環境整備について、本市の考えを問う</p>	<p>(1) 自転車利用者が安全に通行できる環境整備として、路面の凹凸や段差等の危険箇所の道路補修について、今後どのように取り組んでいくのか (2) 自転車は車道通行が原則であり、安全確保の観点から、自転車専用通行帯や矢羽根型路面標示等の自転車走行空間整備を、今後どのように進めていくのか</p>	

質 問 者	10 坂 ゆかり 議 員 (日本共産党議員団)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 学校給食費の抜本的な負担軽減について	1 令和8年4月から「学校給食費の抜本的な負担軽減」がスタートした。この取組は、国及び県が公立小学校の児童の学校給食に必要な食材費について、児童一人当たり一月5,200円を支出し、地方自治体を支援するものである。学校給食の無償化は、経済的負担軽減に留まらず、教育の一環としての子どもたちの教育を受ける権利の保障にもつながることから、更なる充実について問う	(1) 本市の小学校における年度当初と年度末の在籍児童数の差について、過去3年間の状況はどのようなか (2) 令和8年5月1日時点の本市の小学校における在籍児童数はどのようなか。また、そのうち喫食予定児童数はどのようなか (3) やむを得ない事情により喫食していない児童の保護者に対して、金銭給付等の支援を行うことを考えているか (4) 本市独自で負担軽減策を更に拡充し、国に先駆けて中学校の給食費無償化を実施する考えはあるか	
2 地域公共交通の充実について	1 循環バス運行事業の目的の中には、市民の生活交通の確保、高齢者・障がい者等の移動困難者の支援が謳われているが、らんらんバスを利用する市民の期待は大きい。その期待に応えるための方策について問う	(1) らんらんバスのダイヤ・ルートの一部改正について、パブリックコメントの件数はどのようなか (2) らんらんバスの利用者の声を聞く方法として、パブリックコメントだけではなく、高齢者等、多くの方が意見を出しやすい方法をとるべきではないか (3) 特に、バスが遅延した際に乗り継ぎが不便になっていることや、土日祝日の運行便数が少なく太田川駅周辺で行われるイベント等に参加しづらいとの声も多くあるため、土日祝日の運行便数を増やす必要があると考えるがどうか	
3 歩車分離式信号の整備状況について	1 歩車分離式信号の整備が進むことによって、特に横断歩道を横断中の交通事故が減少しているとの調査結果があるが、本市の方策について問う	(1) 歩車分離式信号に対する市の考えはどのようなか (2) 歩車分離式信号の中で、市内ではスクランブル方式の交差点が3箇所整備されているが、どのような理由で整備されたか把握しているか (3) 西知多総合病院交差点をスクランブル方式にしてほしいとの声があるが、整備を要請する考えはあるか	

<p>4 降下ばいじん対策について</p>	<p>1 市南西部の降下ばいじん量の測定値は、市内の他の測定値と比較しても依然として高い値にあるが、市民の生活環境の改善のため、降下ばいじん量の低減に向けた対策とその効果について問う</p>	<p>(1) 令和8年3月に日本製鉄株式会社名古屋製鉄所は製鋼スラグ処理場に防風フェンスを設置したとあるが、スラグの飛散をどのくらい低減することができるかを把握しているか。また、石炭と鉄鉱石の原料ヤードの今後の飛散防止対策について把握しているか (2) 市として臨海部企業に対し、更なる飛散防止対策を求めていく考えはあるか</p>	
-----------------------	---	--	--

質 問 者	11 山 内 遼 平 議 員 (参政党)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 市民の政治参加促進について	1 民主主義に基づく二代表制の東海市政において市民の政治への高い関心と投票行動が極めて重要である中、令和8年3月の東海市議会議員一般選挙の投票率は43.62%であった。市民の政治に対する関心と投票行動を促す取組や今後の方針について問う	(1) 前回及び今回の市議会議員一般選挙における投票率について、どのように受け止めているか (2) 期日前投票所が市内中心部に偏在するが、北部・南部に会場を設けることを検討してはどうか。また、なりすまし等の不正防止対策のため、本人確認をより厳正に行うことは検討しているか (3) 候補者や政策等を比較検討する時間を十分確保するため、選挙公報の配布日を早めることは可能か	
	2 東海市政の情報発信には広報による紙面周知を活用している他、まちづくり報告書をホームページに掲載する等の取組が行われ、XやLINE等のSNSも活用して発信を行っている。その情報発信における充足の程度及び市民のニーズ調査について問う。併せて、それを政治への関心向上や投票行動へ促す方策について市の考えを問う	(1) 現状、市からの情報提供について充足していると感じている市民及び市への意見が反映されていると感じている市民の年代格差はどのようなか。また、その年代格差をどのように埋めるべきだと考えているか (2) 今後の市政情報の発信として、SNSの拡充をどのように考えているか。また、コミュニティ等の諸行事において意見交換した内容についてもSNSを活用して発信してはどうか (3) 選挙権年齢が18歳以上になって以降、市内で実施している若年層への主権者教育の取組はどのようなか。また、その効果をどのように調査・解析し、結果をどのように活かす方針か	

<p>2 予防接種健康被害救済制度の周知について</p>	<p>1 令和3年開始の新型コロナウイルスワクチンの接種事業開始後、ワクチンの副反応・後遺症とみられる健康被害が発生している。国が各自治体を窓口として施行している予防接種健康被害救済制度が適正に運用されるための本市の取組について問う</p>	<p>(1) 予防接種健康被害救済制度について、申請希望者に分かりやすい書き方等の説明は行っているか (2) 市内の医療機関、クリニック及び薬局等に対する受診証明書の記載方法を周知する取組はあるか。また、予防接種健康被害救済制度の申請を希望する患者及びその家族への受診証明書やカルテ写しを提出するように通知をしてはどうか (3) 予防接種健康被害救済を申請された患者等について、当該健康被害を診断した医師が予防接種法に基づく「予防接種後副反応疑い報告」を速やかに行うように周知・通知はなされているか (4) 予防接種前に、有効性、副反応及び予防接種健康被害救済制度等について、市民にどのような説明を行っているのか。また、市民へのさらなる周知及び説明の充実に向けた今後の取組はあるか</p>	
<p>3 子どもをいじめから救済する取組について</p>	<p>1 全国的に小中高生をはじめとする若年層の自殺が増加傾向にある中、本市内の青少年が心身共に健全に成長できるよう支援することは本市の重要な務めの一つである。いじめ防止対策推進法に基づく適切な指導や支援について現状把握と今後の方針を問う</p>	<p>(1) 子どものいじめ問題対策連絡協議会及び子どものいじめ防止等対策委員会での取組の進捗・運用状況はどうか。また、市民、特に教員や保護者に対してどのように展開されているか (2) いじめ防止対策推進法や同法に基づくガイドラインの適切な指導や支援を行う手続きはどのようになっているか。また、指導内容や支援が適正であることの判断は最終的に誰が行っているか (3) 市において客観的にいじめと判断できかねる事象はあるか。ある場合には第三者への検証、指導及び支援要請は行うか</p>	